

令和6年第2回天草市総合教育会議（議事概要）

1 期 日 令和6年12月24日（火）午後2時～午後4時

2 場 所 天草市役所2階 庁議室

3 出席した委員等

市 長	馬場 昭治	教育長	平田 浩一
委 員	木下 えり子	委 員	行合 八恵子
委 員	吉森 啓司	委 員	池崎 教授
委 員	小林 景子		

4 出席した事務局職員

教 育 部 長	平野 貢司	教 育 総 務 課 長	本多 俊隆
学 校 教 育 課 長	福田 稔	生 涯 学 習 課 長	西崎 正和
学 校 給 食 課 長	緒方 勇人	学 校 教 育 課 審 議 員	松本 祥司
教 育 総 務 課 課 長 補 佐	伊野上 乾悟	教 育 総 務 課 総 務 企 画 係 長	松下 美紀
教 育 総 務 課 施 設 係 長	正村 謙一	学 校 教 育 課 課 長 補 佐	伊形 英朗
学 校 教 育 課 教 務 係 長	盛田 達矢	生 涯 学 習 課 生 涯 学 習 推 進 係 長	坂本 真理子
生 涯 学 習 課 中 央 図 書 館 庶 務 係 長	吉田 悦子	学 校 給 食 課 課 長 補 佐	宮崎 奈美
学 校 給 食 課 管 理 係 長	袋田 一貴	学 校 教 育 課 参 事	濱田 祐輔
教 育 総 務 課 参 事	松本 智明		

5 議題

（1）協議・調整事項

- ①小・中学校のあり方について
- ②体験学習の島づくりについて
- ③令和7年度の取組みについて
- ④その他（小中学校体育館の空調設備整備事業について）

（2）報告事項

- ⑤不登校・いじめ問題等の状況について

6 会議の概要

（1）開会

- ・開会に先立ち、事務局から傍聴者の報告を行った。（傍聴者なし）

（2）市長挨拶

- ・馬場市長から挨拶があった。

（3）協議・調整事項

①小・中学校のあり方について

- ・資料1により、教育総務課から説明。

～質疑・意見等～

【木下委員】

児童生徒数の減少により複式学級が増加し、統廃合が考えられる。説明にもあったようにこれからの統廃合は広範囲となって町をまたぐことも考えられる。子ども達にとっては、通学距離や通学時間等の問題、また地域にとってはコミュニティの核がなくなってしまうことも考えられる。

先月の定例会でも同じような説明があったが、小規模校の可能性などいろいろなことを検討会で協議していただきたい。

【吉森委員】

私の地元の倉岳では、前回の統廃合で小学校3校が1校になった。統合するのは仕方がないという感じで話は決まったが場所をどこにするかで揉めた。そのときの会議の一員だったがとてもつらい決断をしなければならなかった。いろいろな方の意見を聞きながら棚底地区に決まったが、またそのようなことがあるのかと思うと辛い。

資料にある統廃合のメリット・デメリットを見ると、私としては、できるだけ統廃合はしてほしいというのが一般的な考えではないかと思う。しかしながら、行政面とか多方面から考えれば仕方がない部分はあるかと思う。そうなった場合、会議などもあるが、できるだけ多くの人の意見を聞いて、できるだけ多くの方が納得できるような形で進めていただければと思う。

【平田教育長】

協議依頼事項の望ましい教育環境に関することに関して、国の考えでは「教育環境を確保するためにある程度数が必要である」とされているが、一方で、本市としては、学校を核とした地域づくり、また地域が学校に協力する取組みを進めている。この前のあり方検討会の最初の挨拶で申し上げたが、統廃合と地域に学校を残すということは、相反するところがあり、検討会ではそこをいかに整理してもらうかということが中身だと思っている。

前回の推進計画では、統廃合により複式学級をなくすというところで線が引かれているが、このときと同じように数で線が引けるのか。それから、現在、天草市では移住・定住の取組みを進めているが、それぞれの地域の中で学校の魅力づくりを進めながら、移住・定住者を呼び込みたい。そのような視点を持ちながら、数だけではなく、その地域の魅力などにも視点をおきながら、考えていく必要があるのではないかと考えている。

あり方検討会の中には、まちづくりの代表、保護者PTAの代表にもご参加いただいているが、広く意見をいただきながら整理できればと考えている。

【行合委員】

教育長の話に関連して、移住してこられた子どもが不登校であった。それが天草町に来てから普通に登校するようになり、成績も良くなれたそうである。保護者から、授業など非常に細やかに教えていただけるので成績が上がったという話を伺った。そういうことも天草の強みではないかと思っている。そういう移住者の受入れというのも方法のひとつではないか。

それから、義務教育学校について、教えていただきたい。

【学校教育課】

義務教育学校については、県内にもいくつか設置されているが、簡単に申し上げると、現在、小学校と中学校が連携しているところがあるが、それが一つの学校になる。同じ校舎に校長先生がいて、副校長、教頭、職員が同じ組織に属するような形で、子ども達が小学1年生から中学3年生まで、1年生から9年生という形で運営する。先ほど小規模校のメリット、統合のメリットの話があったが、義務教育学校というのも検討材料の一つに加えても良いのではないかと考えている。

【行合委員】

義務教育学校のメリット、デメリットなども分かればお尋ねしたい。

【学校教育課】

資料が手元にないが、メリットとしてよく言われるのが中1ギャップの解消である。小学6年生の子どもが中学校に進学したときの変化が薄くなる。そういうつまづきをなくし、小学6年生でリーダーシップを持った子が、そのまま成長していくという点があげられる。そのほか、異学年での交流が進む。子ども達の活躍の場ができる。きめ細やかな対応ができる。中学校の教員が小学校の授業をできるので教科担任制の推進ができるなど。

反対にデメリットとしては、小学6年生での卒業がないため、達成感が薄くリフレッシュが必要であるなど。ほかに、1年生から9年生までの期間で、これまでの6年生、3年生という枠を、5年、2年、2年で分けるとか、分け方にも工夫が必要になるなど、そのようなメリット、デメリットが挙げられる。

【行合委員】

義務教育学校には、小学校・中学校の両方の免許を持った教員が配置されるのか。

【学校教育課】

基本的に小学校・中学校の両方の免許を持った教員が配置される形になる。

【行合委員】

9年間の教育プランを立てるということは、現在の小中連携の取組みが一つの学校のできるで、系統だった、心身の発達に合わせた計画ができる。義務教育学校を推しているわけではないが、そういう方法もあるのだと感じた。

【馬場市長】

天草市と連携を結んでいる愛知県の瀬戸市では、小学校、中学校を全て義務教育学校にされている。全ての学校で1年生から9年生までやっておられるのを見て本当に驚いた。悪い面の説明はなかったが、いろんな良い面があるというか、小学生が見ているから中学生がさぼらずに掃除をやっているという話があった。

【池崎委員】

通学に関して旧市町の枠がある。現在は、その枠を通学圏内としているが、通学時間とか距離を考慮して、旧市町の枠を見直すという考えもあるのか。

【教育総務課】

学校のあり方検討会の中でも、今後、旧市町を超えて統合するのか、そういう話は出てくると思っており、検討会の中に、まちづくり支援課や政策企画課の職員が同席し、議論を聞いてもらっている。今後の天草市にあった学校のあり方としては、学校を統合するだけの話ではなく、地域づくりも関係してくると考えており、その辺りは必要であれば、協議していくことになるかと思う。

②体験学習の島づくりについて

・資料2により、学校教育課・生涯学習課から説明。

～質疑・意見等～

【木下委員】

12月13日に新和小学校で行われた天草体験学の公開授業に参加した。4年生と5年生の公開授業であったが、その目的は、天草の資源を活かし、体験活動を通して自立した子どもを育成し、ふるさとを愛し、郷土を誇りに思う子どもの育成とのことだった。子ども達は新和町の宝。地域の良

さ、産業について学んでおり、町の一員として何ができるのかを考え、友達とコミュニケーションを図りながら、自分の考えを広げ、深めている姿を見ることができた。確実に目的である郷土愛と豊かな心が育まれていると感じた。

【吉森委員】

倉岳小学校では、昨年まで学習発表会を学校独自で行っていたが、今年から地域の「ふるさとまつり」に組み込んでもらって各学年が発表した。地域の方にも大変喜ばれ、たくさんの観客がおられる中で、子ども達も張り切って、とても楽しそうにしていたのが印象的だった。

地域学校協働推進員の手助けがなければここまでことはできなかったと思う。子ども達が地域のイベントに参加することによって、地区振興会や地域の方々も親身になってくださり、来年は今年以上に盛り上げようといった声をいただいた。さらにそれを広げていけば、もっと地域に溶け込んで、子ども達にもやりがいが出てくるのではないかと感じた。

【馬場市長】

私も、ふるさとまつりを見に行ったら本当に盛り上がっていた。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校生まで、子ども達みんなが本当に地域のために、地域住民の皆さんと一緒に盛り上がっている様子を見たとき、非常に嬉しくなった。

【平田教育長】

先日、市長とえびすマラソンに行ったときも、中学生がえびす太鼓を披露していた。学校の校内のマラソン大会と兼ねていて、中学生も大会のボランティアをやりながら、本当にみんなが一緒になって取組んでいた。中学校にとってもマラソン大会を計画して実施するのは、なかなか労力があることだが、本当に両方にとっていい形で、中学生が走るところに応援をいただいて、中学生はえびす太鼓で大会を盛り上げてくれて、地域と学校が一体となっているのを感じた。

【馬場市長】

寒い中だったがみんな頑張っていた。それだけ地元の人たちが、おもてなしをすることによって、外から来られた方々にとっても、満足度の高いマラソン大会になったのではないかなと思う。

【小林委員】

6年生の子どもが恐竜の島博物館の見学に行って、持ち帰った化石を大切に飾っている。先ほど拓心高校の生徒との交流の話があったが、つい最近、3年生の子どもがいただいてきた花を大事そうに庭に植えていた。また、天草高校の学生に夏休みの宿題を教えていただき、いろいろなところで恩恵を受けていると感じている。

【行合委員】

体験学習の島づくりについて、生活体験というのは自分たちの命を守ることに繋がる。生活体験を通じて、知恵、工夫、行動、考えながら、記憶にとどめながら、生きる力の育成に繋がっており、地域学校協働活動のおかげで体験学習が非常に充実していると実感している。

この前は、地域の方とこっば作りをさせていただいた。対象は1、2年生だったが、芋を洗うのにバケツに竹を2本くくって洗い、それから、こっば生地を台に刺してある包丁で、私は包丁で切るんだと思っていたら、その台に包丁を挟んで吊って切っていた。子ども達は、まず2人で芋を運んでくる。そして2人で一緒に話し合いながら、息を合わせて芋を運びそして1人ずつ洗っている。その工程にして道具にしても、先人が生活のために考えて作られたものである。地域のおばあちゃんがこうやって切るんだよとか教えてくださり、子ども達も先生達も不思議そうに見ていて、そういった生活を経験することは、子ども達にとって非常に大事であると実感した。そして、これは高学年とか中学生が道具を見ることによって、先人たちの知恵・工夫を知る。それが自分たちの

生活の中で何か考えるところに繋がらないかと感じている。

子ども達が地域の行事に参加することは非常に意義がある。また、子ども達が地域の行事に参加してよかったなと思えると郷土愛が生まれ、地域の方々が優しく子ども達に、地域の宝として接していただいて生まれる感情であり、私たちはそういう地域の方々、支援して下さる方々にもっと感謝して、支援していただきやすい環境を作っていかなければいけないと思う。

地域の宝である子ども達を、もっと生きる力を育てながら、郷土愛を育てながら、育てていければいいと思う。そして、こういった活動は、継続的な取り組みが必要ではないかと思う。例えば、災害があったときの避難方法にしても、子ども達がこっちに逃げなくてはいけないとか、日頃の避難訓練の結果で、大人は動かない方がいいと言うけど、逃げなければいけないと言ってくれることから、繰り返し経験することが大切ではないかと思う。

【馬場市長】

「体験学習の島づくり」は、私の公約の一つでもあるが、地域学校協働活動推進員の配置については、中村市長のときに配置をいただいて、そういう土台があったからこそスムーズに入れた。

それが結果として先生達の負担を和らげることに繋がらないかと思っていた。結果として、先ほどの説明のとおり先生の負担感は下がっている。そう思われていることは非常に良かったと思うし、高齢化等で地域の人たちも大変ではあるが、子ども達と触れ合うことが地域の人達の元気に繋がってくると思う。そういう感謝の言葉を地域の方々にかけていただくだけで、地域の人達はものすごく喜ばれる。子どもの数が減って、通学もスクールバスとなる中で、地域では子どもの声が聞こえなくなったと言われる。地域の疲弊というのが進んでいるのかと思うと、しっかりと取り組みを進めなくてはいけない。

この体験学習の取り組みはこれからいろいろな事例を通じてもっと進化していくのではないかと思う。体験と同時に、今度はキャンプとか、子ども達が全て用意された環境ではなくて、自分たちで考えて用意していくような、そういう体験ができるようになればと思っている。若干ハードルは高いが、例えば親と一緒に。これは地域の高齢の人達だけでなく、子ども達の親にも参加いただいて、親達にも考えていただく必要があるのではないかと思う。そういう体験学習に進化していくと、最終的にはこの天草がもっと素晴らしい場所になるのではないか。

これからも、おそらくこういうものが求められる。大人でもそうだがＩＴやＡＩで全ての答えが出てくるとかという話ではない。便利なものに頼るだけでなく、そういう子ども達に育ててほしいと強く願っている。

③令和７年度の主な取り組みについて

- ・資料３、資料３－２により、ＧＩＧＡスクール構想、中学校部活動の地域移行について学校教育課から説明。

～質疑・意見等～

【馬場市長】

ＧＩＧＡスクール構想で、タブレットを５,５００台買い替えるという説明だったが、今後もずっと続くのか。

【学校教育課】

更新期間が少し伸びる可能性はあると思っている。

【馬場市長】

熊本市は、部活動を廃止せずに継続する判断をされた。それぐらいの人口があって、また、天草とは違ってエリアがコンパクトであるためできることだが、指導者が１,６００人必要であるといった

大変な部分もあるかと思っている。

【行合委員】

大学院を出た知り合いに公立の教員試験を勧めたが、部活があるから受けないと言われた。部活というのは先生達にとって非常に負担であるのかと改めて知った。残念であるが、給料も高いので私学の教員試験を受けるとのことだった。

【馬場市長】

学校の先生方で、今後の部活動に対して何割ぐらいの方が継続してよいと考えておられるのか。

【学校教育課】

昨年度に行ったアンケート結果では、是非やりたいという教員は1割程であった。迷っている方も含めると3割から4割ぐらいである。

【小林委員】

クラブチームに入っている方から聞いた話だが、クラブチームだと中体連に出られないと言われていた。その辺りはどうなっているのか。

【学校教育課】

地域クラブ活動移行の中で中体連に関する議論も進めているところだが、中体連としては、昨年度から4月時点で、クラブチームと子ども達に対して、学校部活動として出るか、あるいはクラブチームとして出るのか意向調査をするようになっていく。中体連は、クラブチームにも門戸を広げており、昨年度からクラブチームも出場できる。ただし、現在の制度だと県の中体連にクラブチームは1枠のみで、県の中体連の1枠をかけて熊本県内のクラブチームで大会等を行って、1チームだけが県中体連に出場できる仕組みである。

ただし、各市町村で、中学校部活動の地域移行の受け皿としてできた地域クラブ活動に関しては、他の中学校と同じように郡市の大会予選から出場できるというルールを中体連で定めている。天草市においても、地域移行の受け皿であると認められたクラブチームは、郡市大会から出場できる。地域クラブとして認めるかどうかについては、地域移行した結果、中体連に出場できなくなったということがないように推進協議会の中でもガイドラインを定めていきたいと考えている。

【馬場市長】

中体連そのものがなくなることはないのか。

【学校教育課】

全国的な話だと全国中体連の種目は絞られる傾向にあり、昨年は20競技であった。子ども達が目標にしている大会ということもあり難しいとは感じているが、大会のあり方も並行して見直されるのではないかと考えている。

【馬場市長】

県民体育祭についても、次回から地域巡回が取りやめになった。来年の熊本市が最後で、その後については今後協議することになっている。この前の新聞では、国体に関しても高校総体、中体連の全国大会まで一緒にしてしまっただろうかという記事が載っていた。

いろんな負担や、人が少なくなっている問題もあってなかなか厳しい状況であるが、天草市でも是非、大会を誘致したいと思っているので、よろしくお願いします。

【行合委員】

ＩＣＴ活用教育に関して、支援員の存在が非常に大きいと思っている。最初の頃は充電切れもあったが、現在の子供達を見ていると、タイピングも操作も非常に上手になって、何か戸惑いなどあったとき、支援員の方がずっと入っていかれている。学校訪問のときにそれを見たとき、支援員の存在は大きいと感じた。

今後、ノートとタブレット端末の使い分けの授業、そして子供達が主体的に共同的に深く学ぶ授業づくりが、どのように展開されていくのか楽しみである。将来、子供達が社会を生きていく中で、このＩＣＴ活用はなくてはならないものであり、より進めていただけたらと思う。

また、ＩＣＴ活用授業においては、学校間で格差があると思うので、その格差を少しでも解消できるような取り組みをお願いしたい。先生の中にも苦手な方がいらっしゃると思うが、ＩＣＴ講習などそういう技術を学ぶ機会があるのかお尋ねしたい。

【学校教育課】

教職員のスキルアップについて、本年度は10校で公開授業を行った。教職員も参加をしながら、これからの授業作りについて学んでいただく機会を設けた。また、今年の夏には、Googleの方にいろんなソフトの活用研修をしてもらい、前日には全職員を対象に東京学芸大学の堀田教授の講演会を行った。そういう授業を見て、自分たちで実際にソフトを動かしてみたりする研修をやることで学び得るものがあり、今後もこのような研修ができればと思っている。当然、苦手な先生もいらっしゃるが、公開授業の中でもベテランの先生がＩＣＴに挑戦されていて、素晴らしい授業をされている。このような素晴らしい技術も含めて、ＩＣＴを普及できたらと考えている。

【平田教育長】

やはり若い先生、子供達は上手になるのが早い。先生達が課題と言われるが、校長先生方からの話を聞くと、学校の中でもいろんな年代の先生がおられて、学校の中でＯＪＴのように年配の先生が若い先生に尋ねたり、校内でもいろいろな研修に取り組まれているそうである。

【木下委員】

新和小学校の公開授業のときの先生のお話で、夏休みに先生同士で校内研修をして、自分なりに自信がつき、2学期から初めてＩＣＴを活用した授業をされたとのことだった。先生一人一人が、使わなくてはならないという気持ちで取組まれているのが分かって嬉しかった。

【行合委員】

新和小学校のリーディングＤＸ公開授業で、新和小学校の先生から教育委員会の方々に大変お世話になっているという話があった。学校側がもっと良くなるように、教育委員会の方々が端末やＩＣＴ機器の活用について一生懸命支援してくださっていると、先生の話聞いて感じた。

④その他 小中学校体育館の空調設備整備事業について

- ・資料4により、小中学校への空調設備整備事業について教育総務課から説明。

～質疑・応答～

【馬場市長】

本年度と来年度で全30校を完了する予定である。体育館は災害時の避難所になることもあって進めさせていただいた。国の補助金を活用する方法もあったが、逆に、体育館の建物の見直しから行う必要があり、そうするととてもお金がかかる。結果、補助金もらうより過疎債等を充てればそっちの方が安く上がるということで一気に進めた。

市長会でも様々な意見をいただくが、子供達や保護者にも天草市は子供達の教育について一

生懸命取り組んでいることにご理解をいただきながら、いろんな活動にご協力いただければと思う。
また、地域の社会体育でも体育館を使われているが、運動の機会を作るという部分で、地域の皆様にもご理解いただければと思う。

⑤その他 不登校・いじめ問題等の状況について

・資料5により、不登校いじめ問題等の現状について学校教育課から説明。

～質疑・応答～

【馬場市長】

説明にあったフリースクールの子ども達は、不登校の扱いになるのか。フリースクールの授業に出た場合は、出席に換算されるのか、その辺りを教えてほしい。

【学校教育課】

ここに出ている子ども達は、全て不登校に当たる。フリースクールに関しては、昨年度、ガイドラインを策定して、下田南にある学習支援センターに通っている場合、出席扱いにしているケースがある。

【馬場市長】

体験学習の島づくりを提唱したとき、おそらくこういうことをしっかりとやっていけば、不登校は減ってくるのではないかと考えていた。そこが実際に数値として結果に繋がっていけばと思っているが、何かアンケート取るとき、よかったら考慮してほしい。

先生方にも一生懸命取り組んでいただいております。少しずつ改善している。ただ、小学生が増えているのが少し気になる。

【池崎委員】

スマートフォン等の所有について、小学生で75パーセント、中学生でも90パーセントぐらいとあるが使用時間の目安などあるのか。毎日3時間も4時間も使用してよいのか疑問がある。指針や学校での取り決めなどあるのか。

【学校教育課】

具体的に何時間以上とか、全体として統一して示しているものはない。もしかすると、各学校やPTAで取り組んでいる事例があるかもしれないが把握はしていない。今回の資料にはないが、実態として、1日3時間以上端末を利用している子どもが中学校では10パーセント、小学校の高学年で14パーセントという調査結果がある。ただし、これは子ども達の意識調査であり、実際に計測したものではないため、どれだけ正確であるかは検証の余地がある。

【馬場市長】

2時間以上使用という項目があったので、それ以上使うのは良くないのかと思っていた。例えば何時間以上になると、何らかの影響があるといった研究などないのか。

【学校教育課】

一般的な文献でも諸説あるが、端末の使用時間については、例えば学校からの持ち帰りの端末を推奨しており、学習に使う部分もあるため、その線引きが非常に難しい。

統計自体では個人の端末となっているが、学習方法としての多様化が進み、AIドリルで学習している子ども達もいるので、その端末を使う時間が長ければ長いほど悪いのかということは単純に時間だけで判断できない。実態把握の難しさがある。

【馬場市長】

学びの多様化というか非常に難しいと思う。今後、その辺りの研究等が出てくるまでは、様子を見ることになるかと思う。

【行合委員】

学校訪問の中で、最近、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学校が増えてきた。子ども達に尋ねると、友達と話すのに一番気を使うという話を聞く。小学校で不登校が増えており非常に心が痛い。小学校においてもソーシャルスキルトレーニングや、エンカウンター、そういうものが必要ではないか。本音を話し合う、そういう時間を栖本小学校で取り入れておられたが、子ども達に小学校から不登校の傾向があるということは、何らかの多様化の影響ではないか。

【学校教育課】

スクールソーシャルトレーニングは、中学校の方で増えている。中学校で広まった一方で、小学校での事例はあまり多くは聞かない。その問題についても、もう一度、検証していきたいと思う。

【木下委員】

不登校に関して良い話があるのでお知らせしたい。この前、倉岳中学校に学校訪問に行ったとき、不登校がゼロ、欠席ゼロの日が 11 月 15 日までに 44 日あったとのこと。不登校や登校しぶりが増加する中で、この倉岳中学校の取組みはすごいと思った。

また、別の話であるが、学校訪問で子ども達の肥満傾向と視力の低下を感じた。肥満気味の子どもが多くなり、低学年でも眼鏡をつけている子どもがいる。12 月 21 日の新聞に小学校 5 年生の女子の体力が過去最低という記事があった。運動する子としない子の差が、肥満の傾向にもあるのではないかと思った。

(4) 閉会

以上